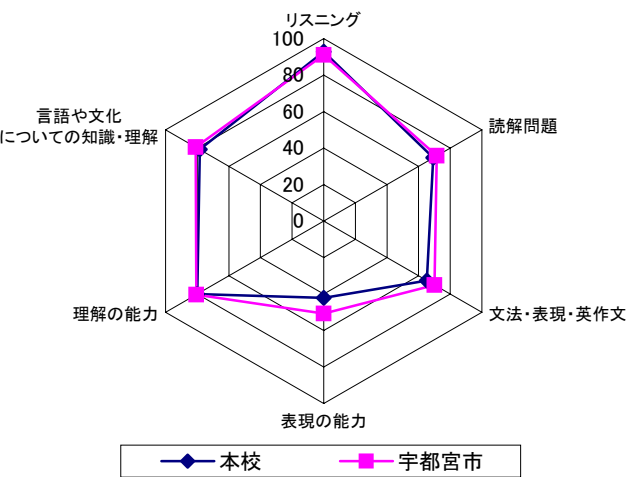


宇都宮市立上河内中学校第2学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	リスニング	92.8	91.1
	読解問題	69.2	71.5
	文法・表現・英作文	65.2	70.0
観点別	表現の能力	42.0	50.6
	理解の能力	79.9	80.4
	言語や文化についての知識・理解	78.4	81.1



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
リスニング (92.8%)	・市の平均を若干上回ることができたのは、授業中の教科書を使用してのリスニングをほぼ毎時間行っている成果がでているためだと思われる。またこちらからの支持や簡単な応答は英語で行っているのも一つの要因であろう。おおむね良好と考えられる。	・音声を通じた言語活動もこれから積極的に取り上げ、生きた英語を使える生徒を育成していきたい。また、リスニングとスピーキングは大きく関連していることから、多様な英語表現を引き出させるような工夫も必要となってくる。そのため、こちらから発信する英語表現を多くすることも大切である。
読解問題 (69.2%)	・この項目に関しては市平均に対し2.3ポイント下回ってしまった。原因としてあげられるのは日本語に訳すことを重視するあまり、語と語のつながりを意識した読解方法を教授する機会が少なくなってしまうことが考えられる。	・長文のみならず、いくつかのつながっている文を読解し、前後関係を把握させる機会を増やすことが必要となってくる。また、現在も行っている単語確認テストや本文読解予習をより強化し、今以上に継続して行うことも大切である。
文法・表現・英作文 (65.2%)	・これに関しても市平均に対し4.8ポイント下回っている。昨年度に引き続きこの項目がかなりのウィークポイントである。他学年も同様の傾向にあり、本校全体の課題として挙げられる。	・表現力をつける機会はALTとのチームティーチングの時間(全体の3分の2)を費やして、書くことと話すことを中心に行ってきた。それでもこのような結果であるため、時間数の問題ではなく、その内容の改善が求められる。現在行っている耳から英語を慣れ親しむだけでなく、導入方法として文字から英語を脳に取り入れる工夫も必要となってくる。